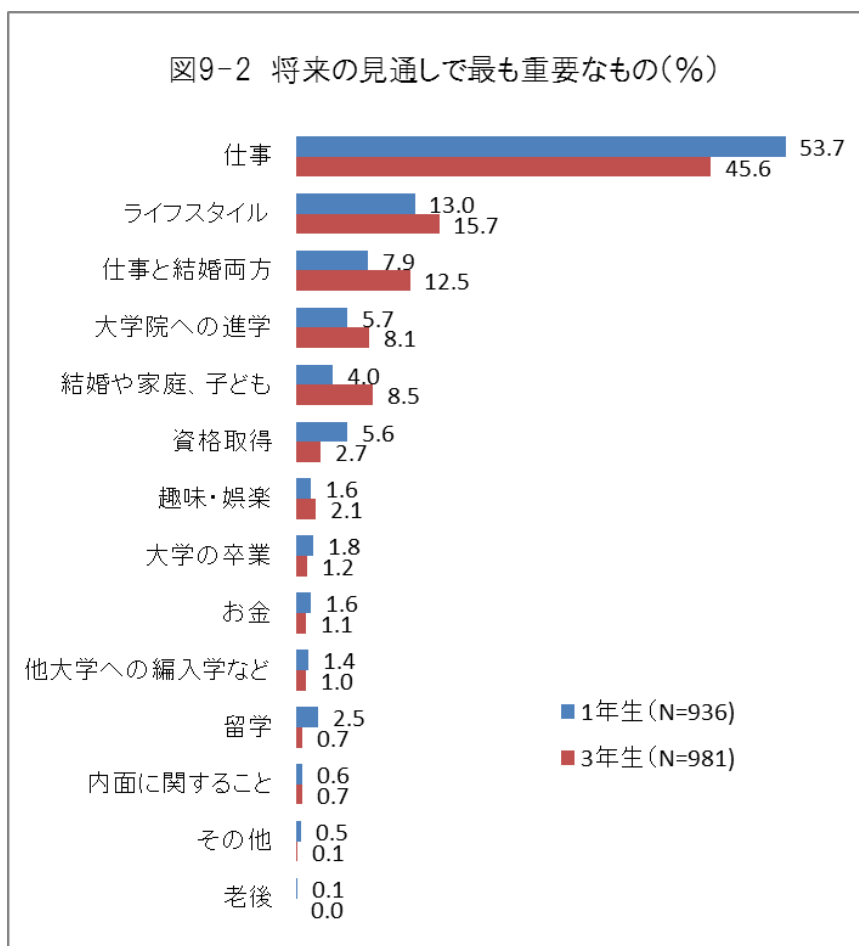
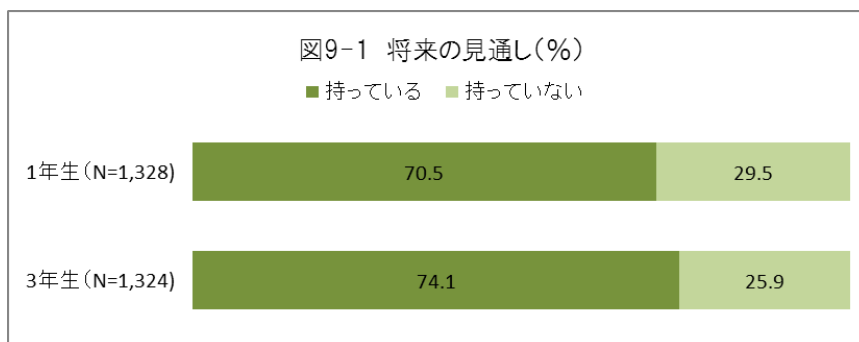


Q9-1,2 将来の見通しとその理解実行

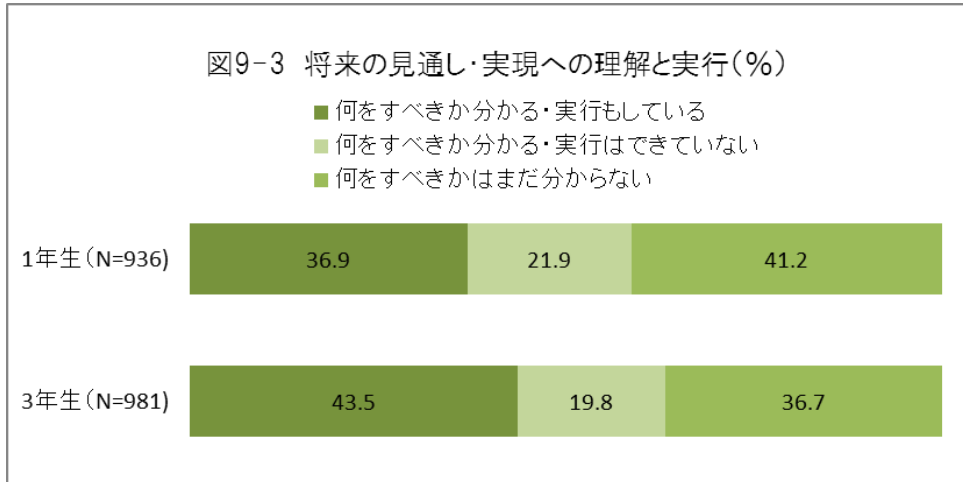
将来の見通しを持っていると答えた学生は1年生、3年生ともに70%を超えている。

将来の見通しで最も重要なものについて尋ねたところ、もっとも多い回答は「仕事」で、1年生が53.7%と、3年生の45.6%を上回っている。将来の見通しがより現実的なものとなりつつある3年生では、「ライフスタイル」や「結婚」、「大学院への進学」などの各項目で1年生を上回っている。



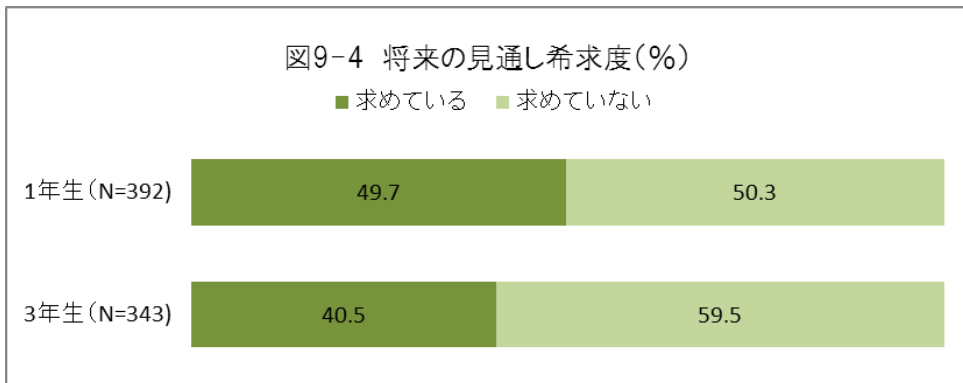
Q9-3 将来の見通し・実現への理解と実行

将来の見通しを実現するために何をすべきかの理解と実行について尋ねた。「何をすべきかわかる・実行もしている」は、1年生36.9%に対し、3年生は43.5%と上回っているものの、その差は6.6%に過ぎない。「何をすべきかまだわからない」は、1年生41.2%、3年生36.7%で、その差は4.5%。3年生がかならずしも将来への準備を始めているとは言い難い。



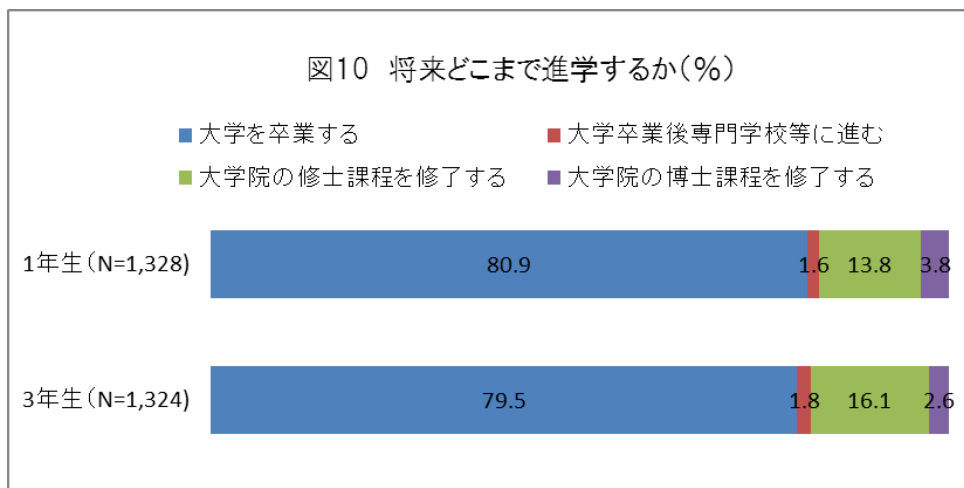
Q9-4 将来の見通し希求度

将来の見通しを求めているかを尋ねたところ、「求めている」と回答したのは1年生(49.7%)が3年生(40.5%)を上回っていた。3年生にとって将来の見通しより、目の前の就活への対応が重要ということだろうか。



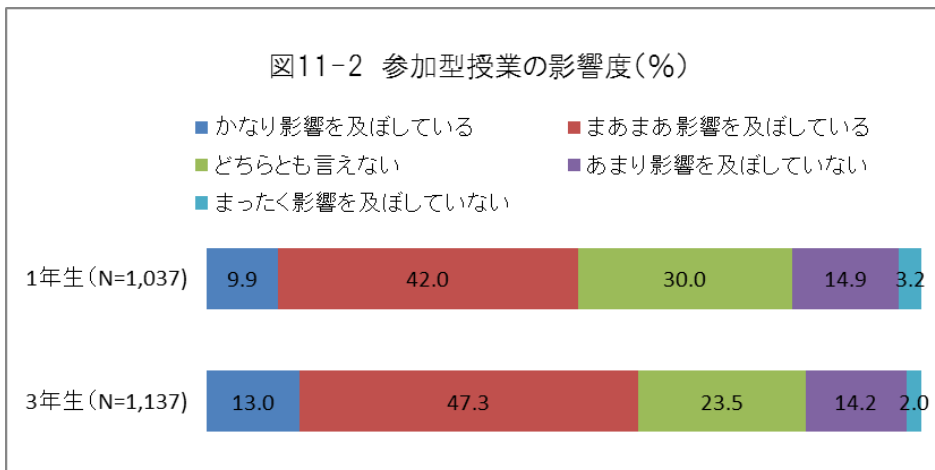
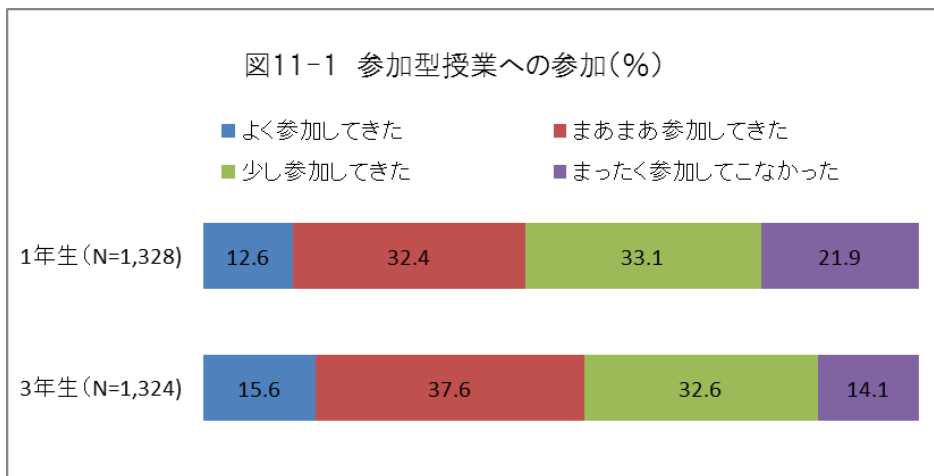
Q10 将来どこまで進学するか

将来どこまで進学するかは、1年生、3年生ともに約80%の学生が「大学卒業」(1年生80.9%、3年生79.5%)を、約15%の学生が「大学院修士課程修了(専門職大学院を含む)」(1年生13.8%、3年生16.1%)であった。



Q11 参加型授業への参加

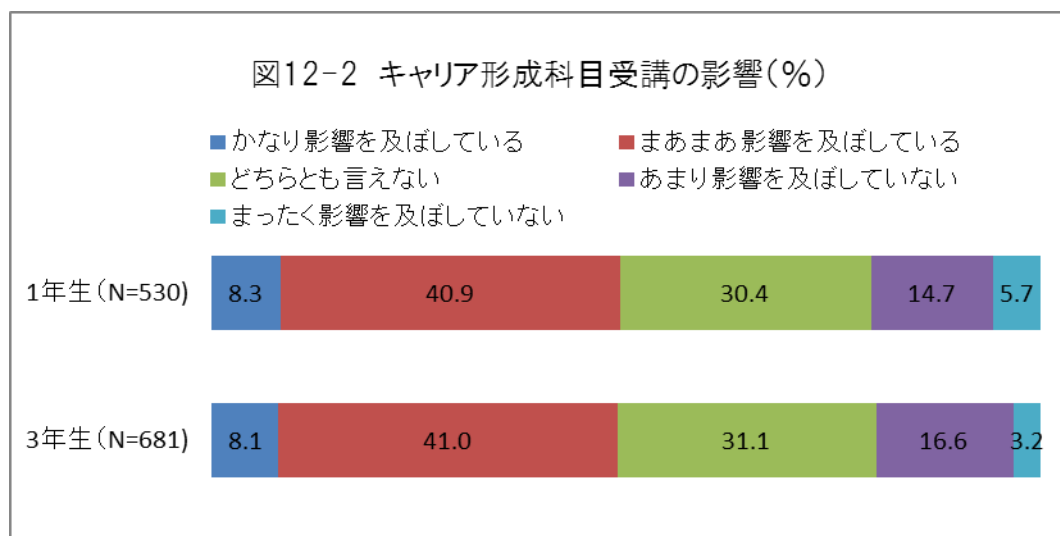
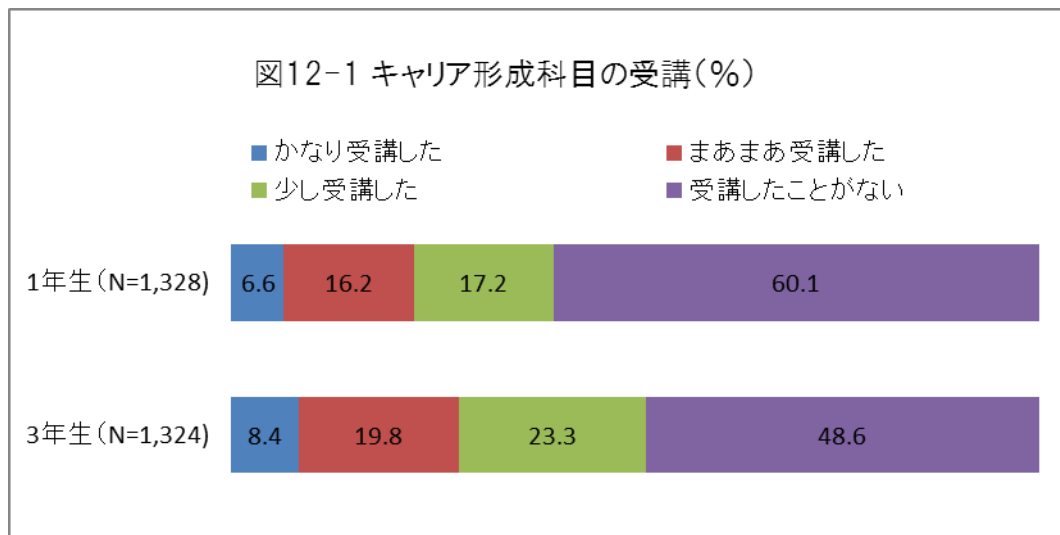
参加型の授業・演習の参加状況(*「よく」「まあまあ参加」の合算)は、1年生(45.0%)より3年生(53.2%)の方がわずかながら高い。参加することでの自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響」の合算)では、3年生(60.3%)の方が1年生(51.9%)よりも高い。



Q12 キャリア形成科目の受講

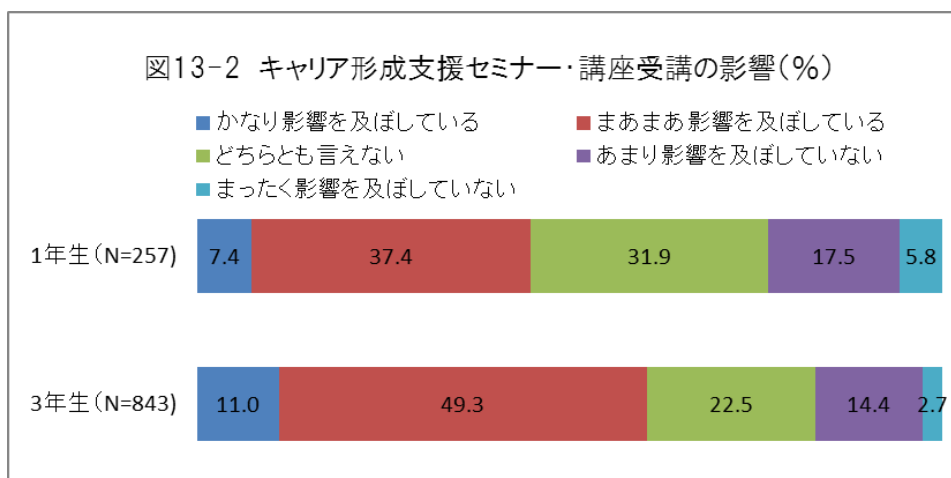
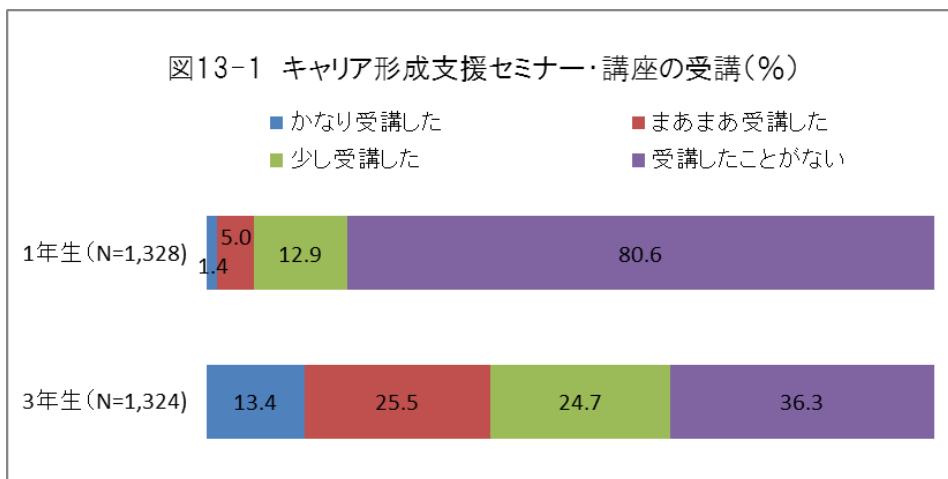
キャリア形成科目の受講経験(「かなり」、「まあまあ」、「少し受講した」の合算)は、1年生が40.0%、3年生は51.5%で、3年生の関心の高さがうかがわれる。

キャリア形成科目受講の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響を及ぼしている」の合算)は、1年生49.2%、3年生49.1%で、ともに約半数の者が感じていた。



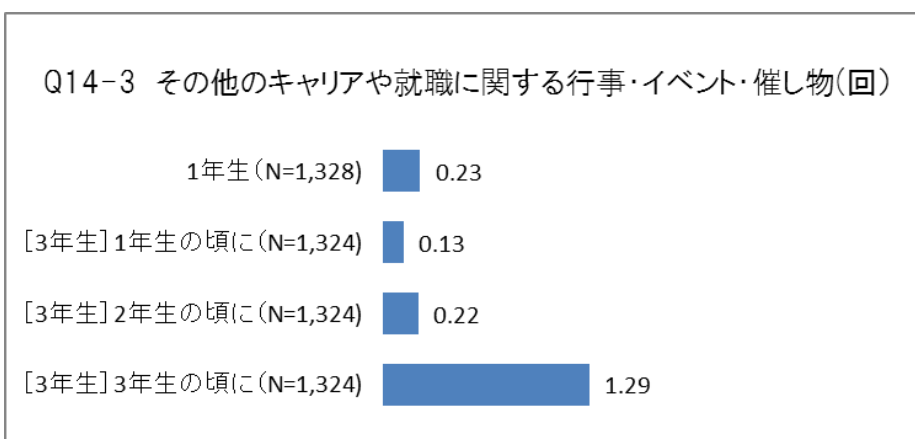
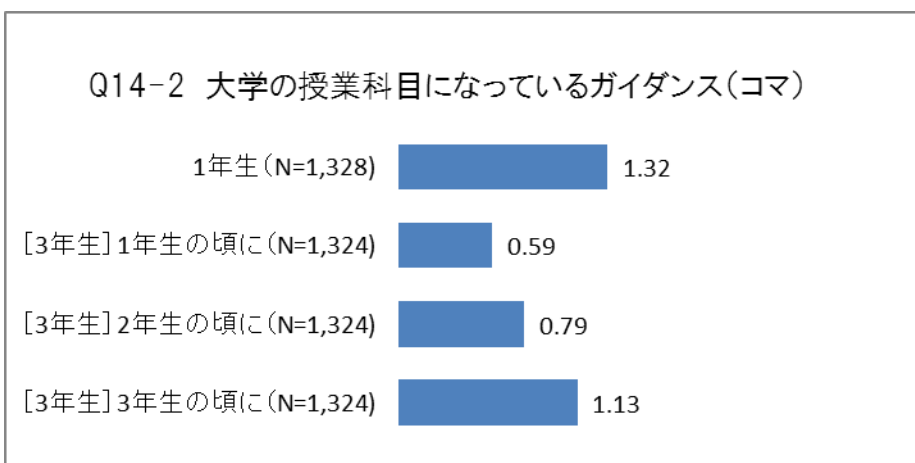
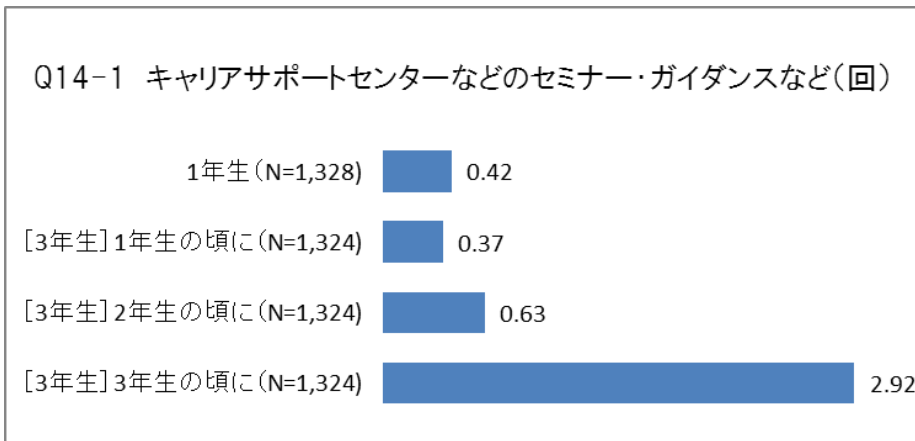
Q13 キャリア形成支援のためのセミナー・講座の受講

キャリアサポートセンターの主催するキャリア形成支援のためのセミナーや講座の受講経験は、1年生(19.3%)よりも3年生(63.6%)が断然高い。今の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響」の合算)も、3年生(60.3%)が1年生(44.8%)よりも高かった。



Q14 キャリア形成支援のための行事・イベント・催し物への参加経験

キャリアサポートセンターの主催するキャリア形成支援のためのセミナーや講座の受講回数は、3年生が3年生になってからの参加が圧倒的に多い。大学の授業科目になっているガイダンスでは1年生の取得コマ数は3年生が3年生になってから取得するコマ数を上回っている。その他のキャリアや就職に関する行事や・イベント・催し物は3年生の3年時での参加が高くなっている。



Q15-1 就職関連の行事・イベント・催し物への参加

参加する就職関連の行事・イベント・催し物の項目をみると、1年生は準備段階で、3年生がより現実的なものへの参加が高いことがわかる。また、全体的に3年生の参加割合が高いことがわかる。

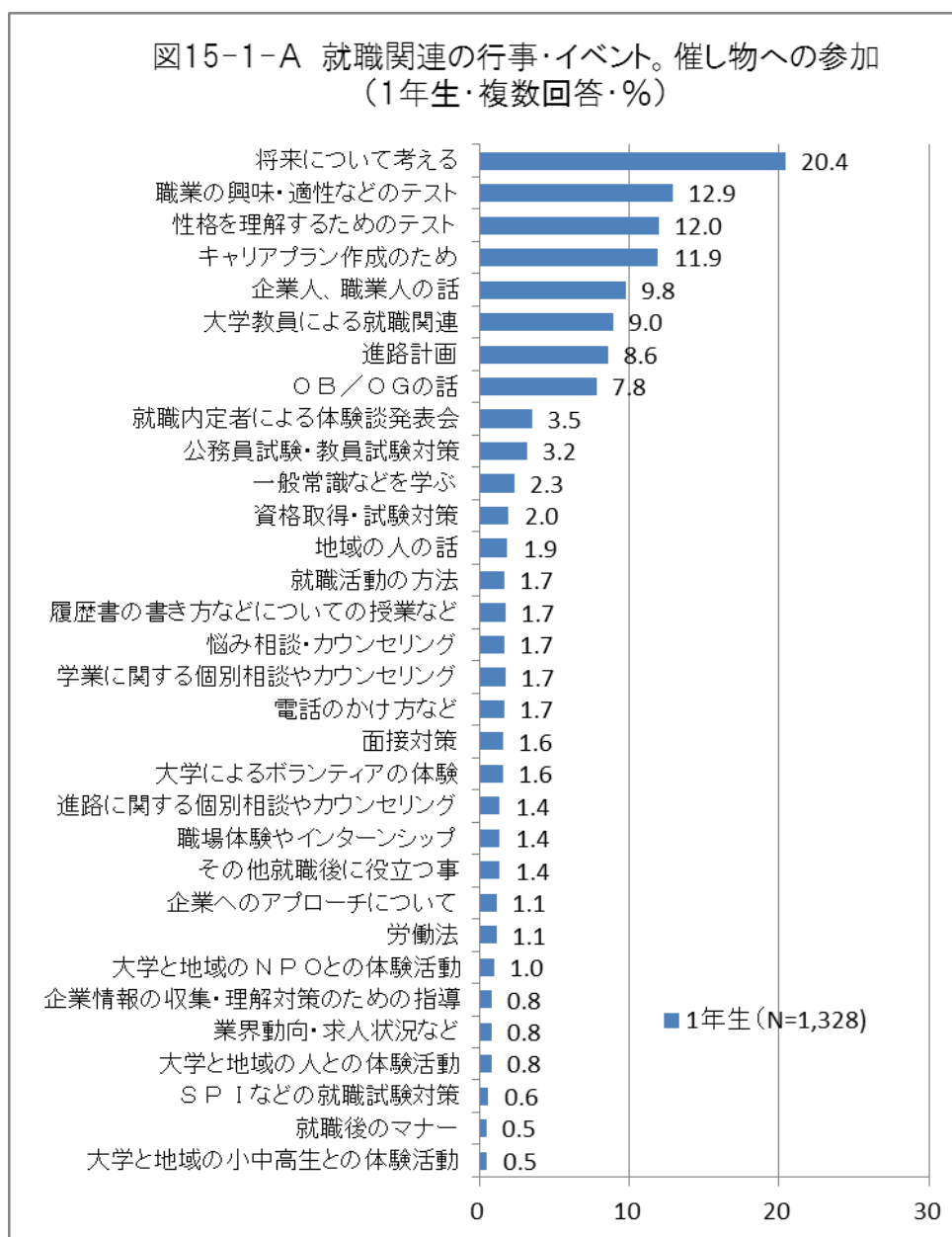
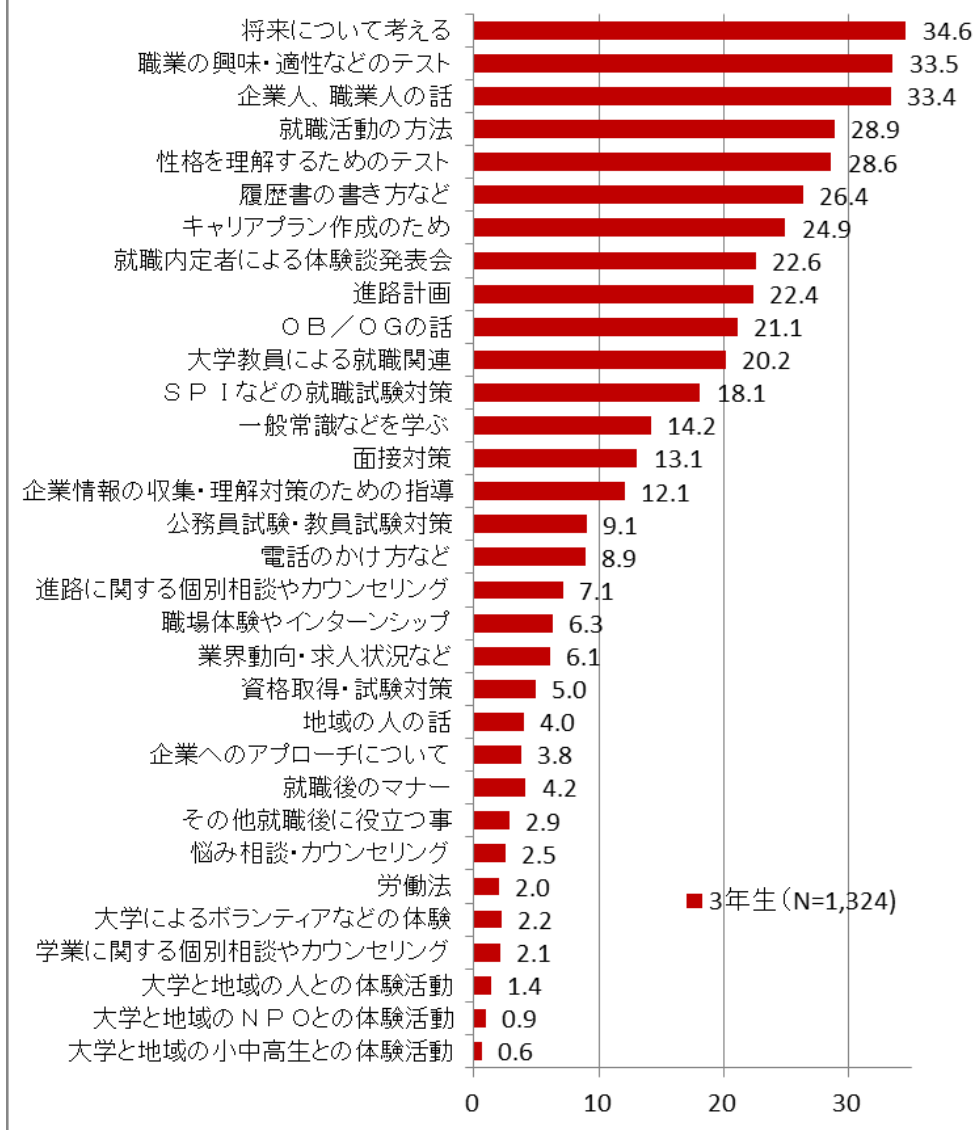
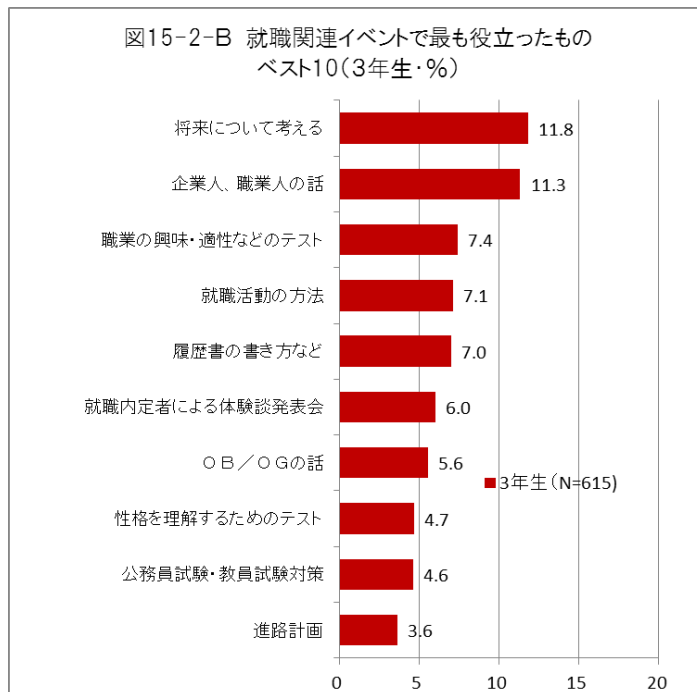
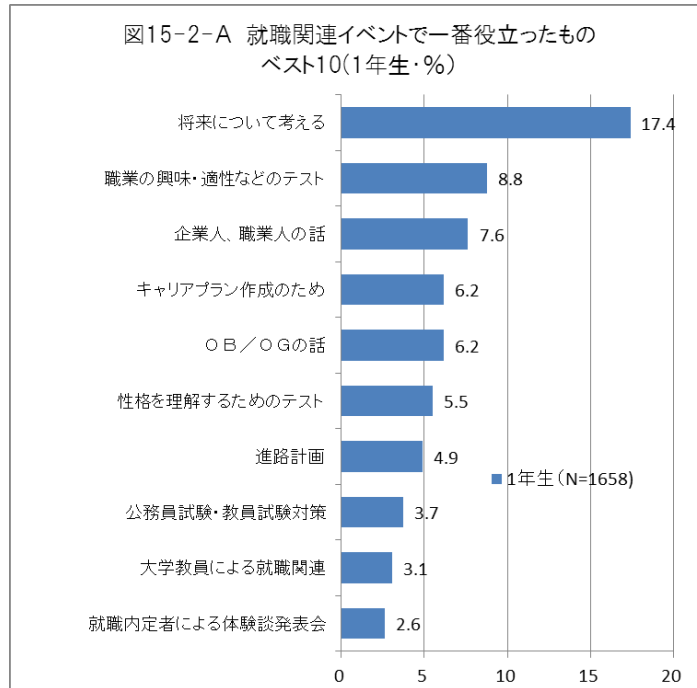


図15-1-B 就職関連の行事・イベント・催し物への参加
(3年生・複数回答・%)



Q15-2 就職関連イベントで最も役立つもの

就職関連イベントで役立つもののベスト10を示した。1年生に比べ、3年生が挙げる項目の多くは、より現実的で、即、就活に役立つ項目が挙げられている。

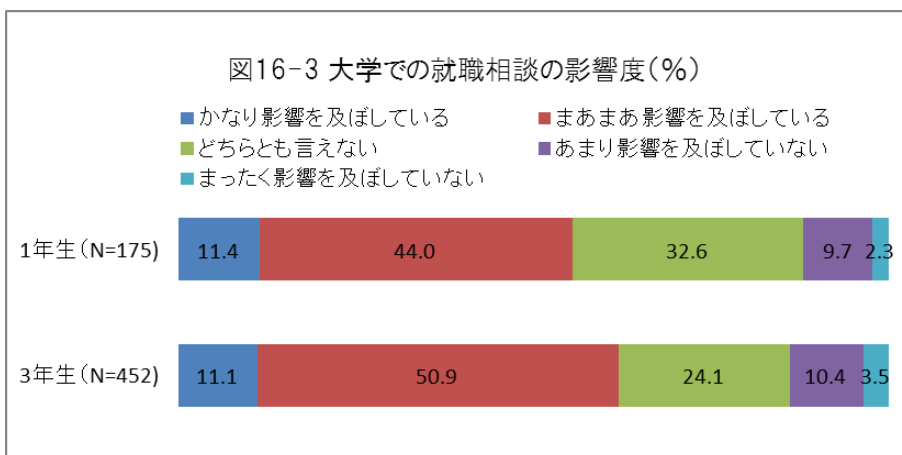
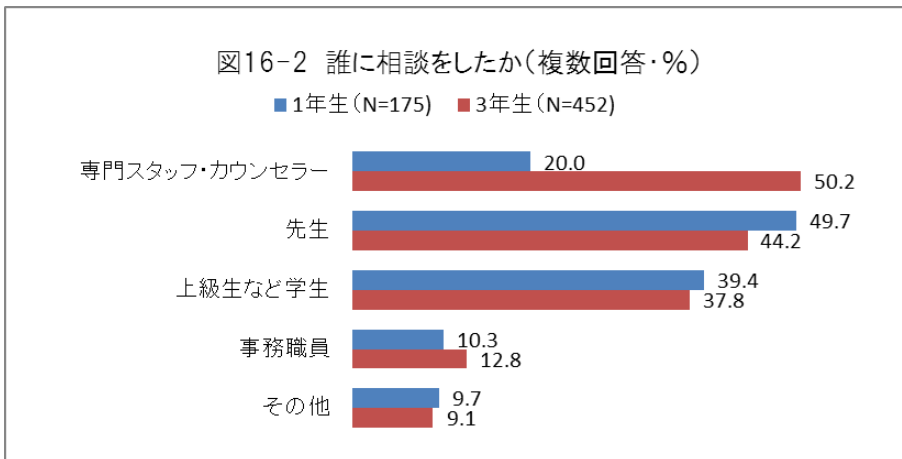
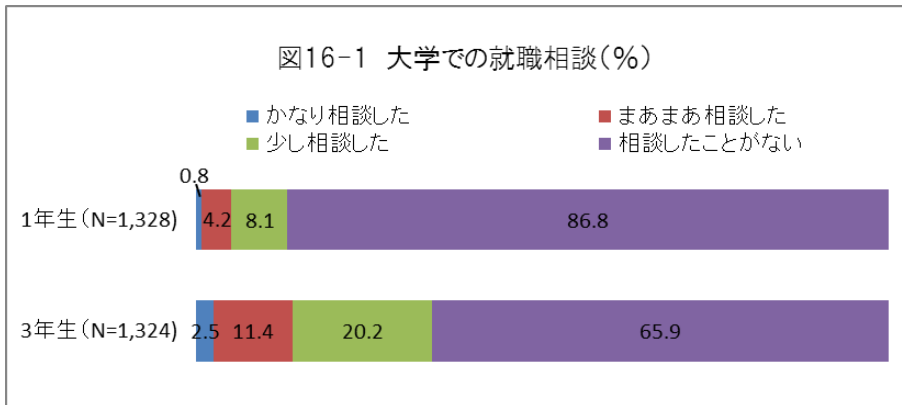


Q16 就職相談

就職相談の利用率は3年生でも34.1%と、全体の1/3にとどまっている。

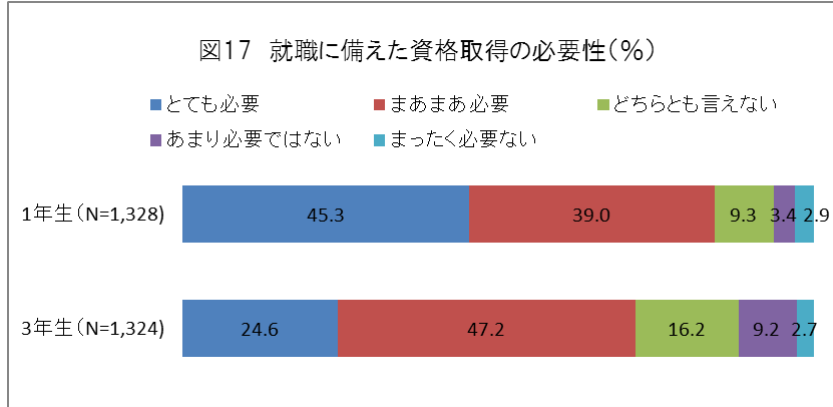
相談相手は、1年生は「先生」がトップで49.7%と約半数に達しているのに対し、3年生の相談相手はトップが「専門スタッフ・カウンセラー」(50.2%)で、「先生」は2番目で44.2%であった。

相談相手の影響度は1年生55.4%、3年生62.0%であった。



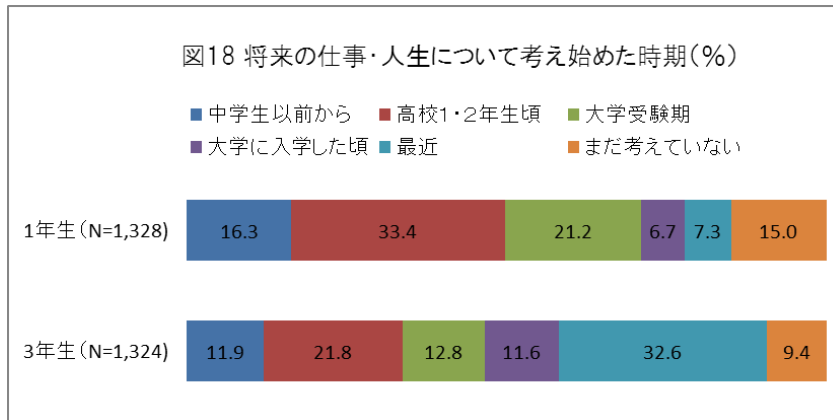
Q17 資格の必要度

資格の必要度を尋ねたところ、必要と回答した学生は、1年生が84.3%であるのに対し、3年生は71.8であった。「とても」「まあまあ必要」の合算。



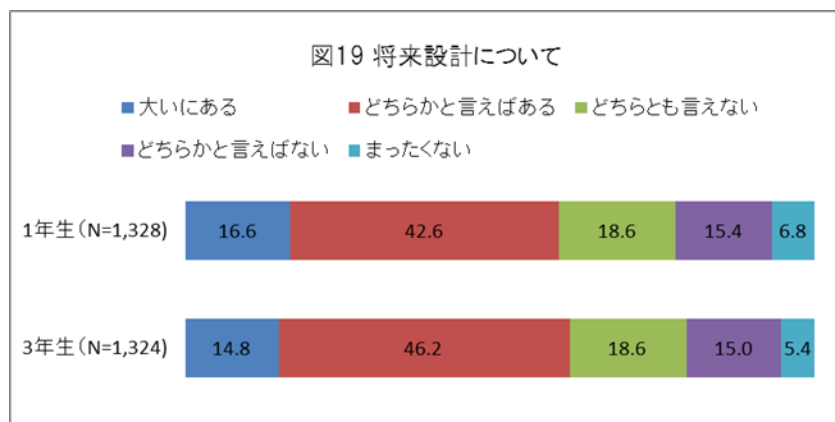
Q18 いつから将来の仕事や人生設計を考え始めたか

将来の仕事や人生設計を考え始めたのは、1年生で「高校1・2年生頃」(33.4%)、「大学受験期」(21.2%)が多いのに対し、3年生は「最近」(32.6%)、「高校1・2年生頃」(21.8%)であった。



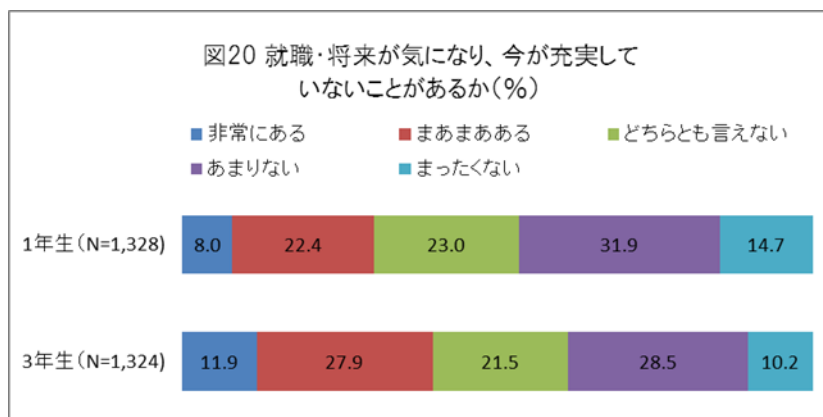
Q19 就職や将来の設計

就職や将来設計がある(「大いに」、「どちらかといえばある」を合算)と回答したのは、1年生、3年生ともに約60%と、大きな差はなかった。



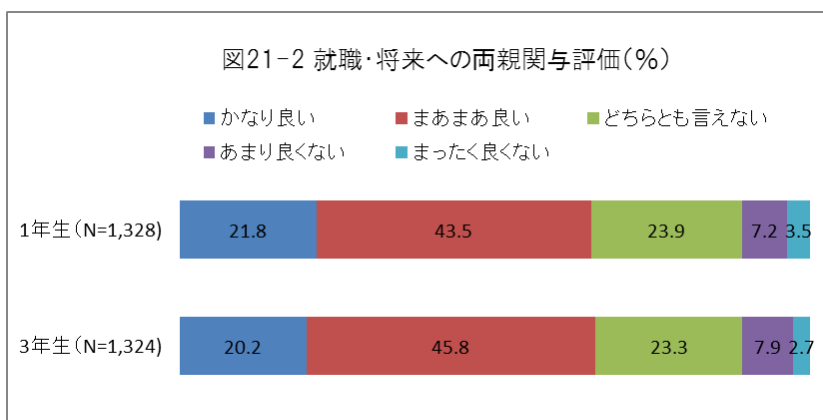
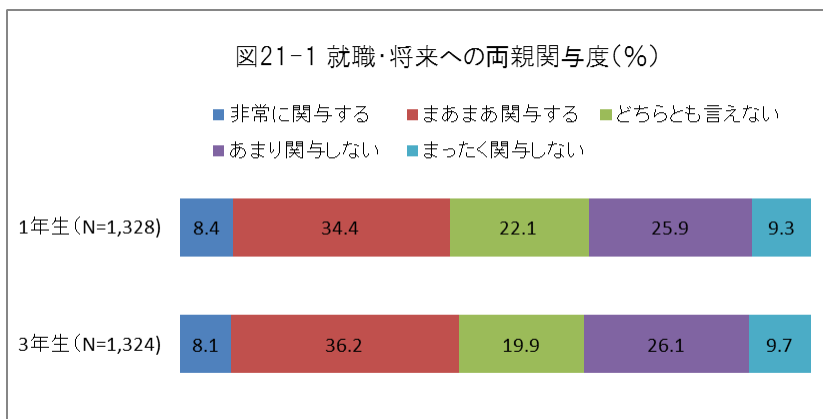
Q20 就職や将来のことばかり考えてしまうか

就職や将来が気になり、現在の学生生活が充実していないと感じているのは1年生で30.4%、3年生が39.8%(非常にある+まあまあある)で、3年生が就職・将来を気にしていることがわかる。



Q21 就職や将来のことに関する両親の関与

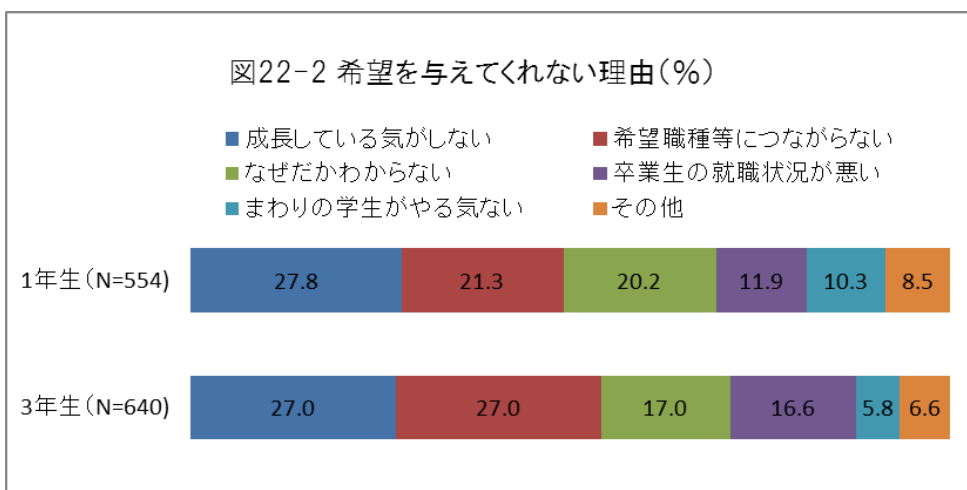
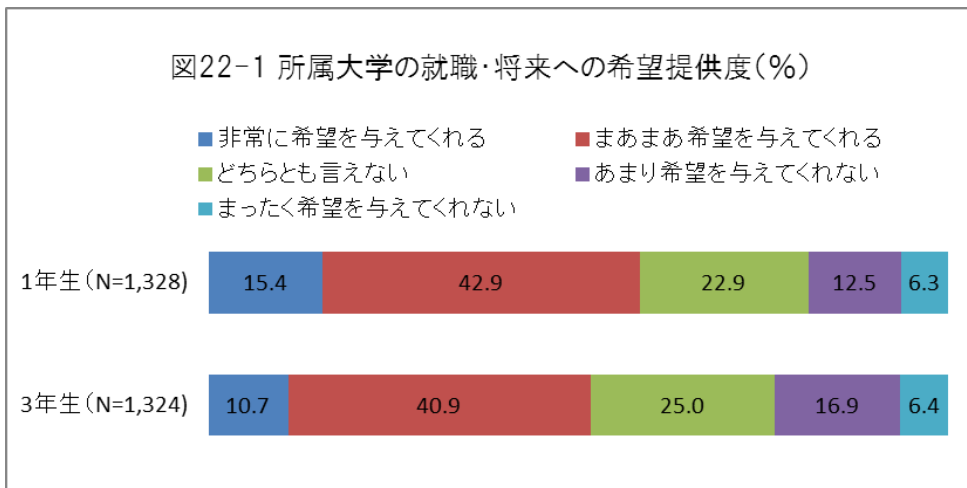
就職・将来への両親の関与は1年生・3年生ともに43～44%であった。1年生、3年生ともに65%の学生は、両親の関与を「よい」と評価している。否定的な評価は約10%と少ない。



Q22 大学や学部・学科・コースは将来に希望を与えてくれるか

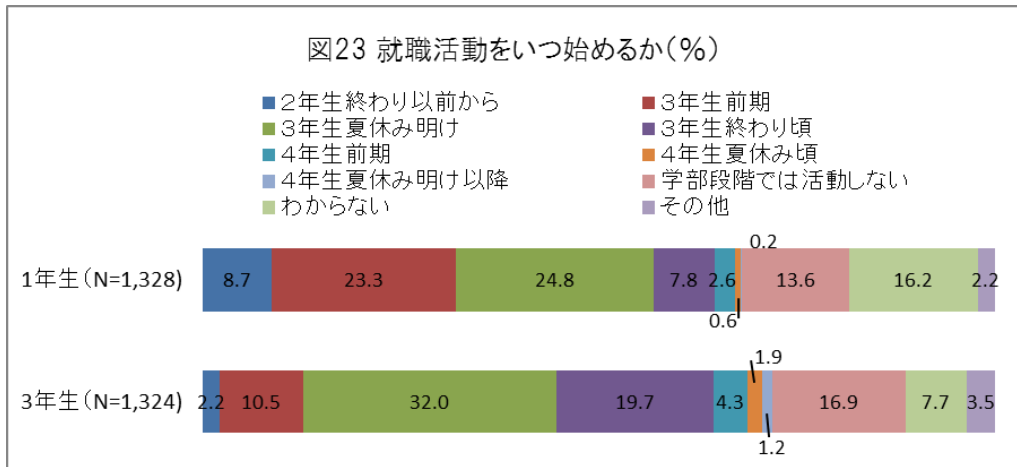
現在所属する大学、学部・学科・コースが就職や未来に対して希望を与えてかどうかを尋ねたところ、1年生(58.3%)の方が3年生(51.6%)よりも希望を感じると答えたいくれる(*「非常に」「まあまあ与えてくれる」の合算)。

また、希望を与えてくれない(*「あまり」「まったく与えてくれない」の合算)と回答した学生にその理由を1つ尋ねたところ、1年生、3年生ともに「大学で勉強していても自分が成長している気がしないから」で、次いで「希望職種につながらない」、「なぜだかわからないが希望を感じない」と続いた。



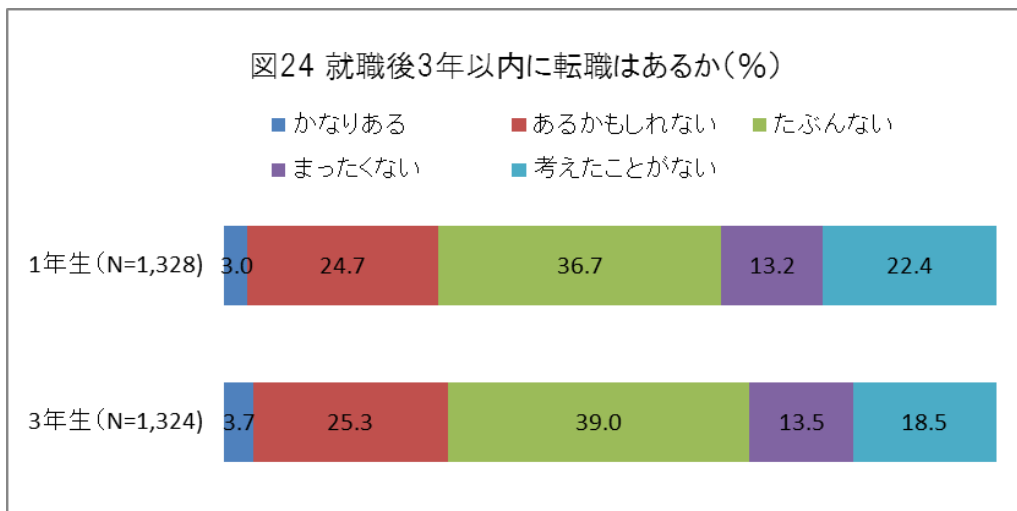
Q23 就職活動の開始時期

就職活動をいつ頃から始めようと考えているかを尋ねたところもっとも多かったのは「3年生の夏休み明け」(1年生24.8%、3年生32.0%)であった。次いで多いのが1年生は「3年生前期」、3年生は「3年生の終わりごろ」であった



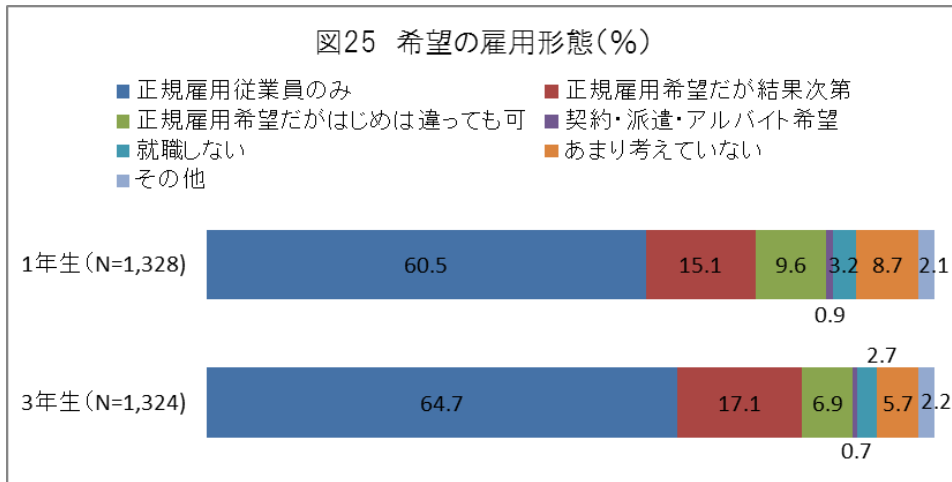
Q24 転職の可能性

就職後5年以内の転職予想(*「かなり」「あるかもしれない」の合算)は、1年生27.7%、3年生29.0%とほぼ同じ。転職しない(*「たぶん」「まったくない」の合算)は1年生49.9%、3年生52.5%といずれも約半数に達し、安定的な終身雇用を希望する実態が反映されている。



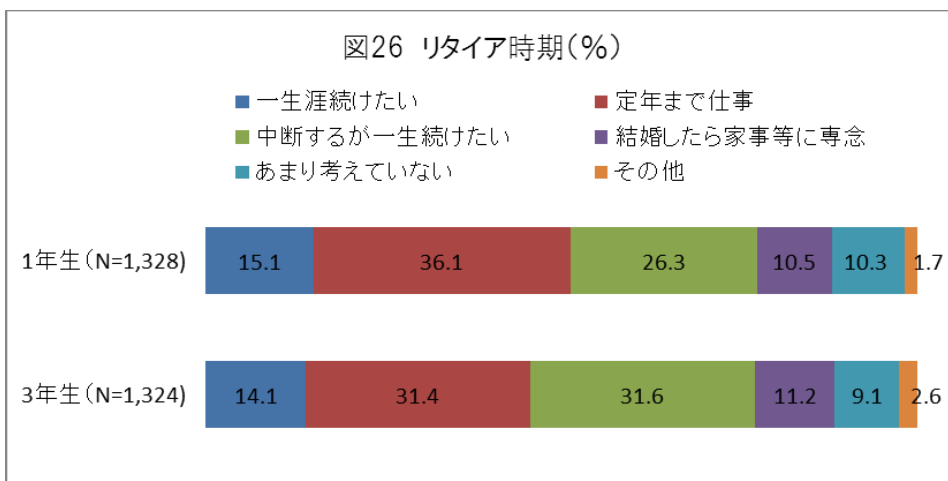
Q25 希望する雇用形態

就職時の雇用形態についての考え方を5つ提示して、もっとも近いものを1つだけ選ばせたところ、「正規雇用の従業員以外は考えられない」という学生が、1年生、3年生ともに6～7割を占めた(1年生60.5%、3年生64.7%)。



Q26 いつまで仕事を続けるか

リタイアする時期については「定年まで仕事」と、「中断するが一生続けたい」を合わせると1年生62.4%、3年生63.0%に達し、「一生続けたい」を加えると、1年生、3年生ともに80%近くになる。



Q27 理想の仕事

大学生にとっていちばん理想的な仕事とは「仲間と楽しく働ける」ことであり、「失業の心配がなく」、「専門知識が生かせ」、「世の中のためになる」仕事だった。「高い収入」が一番大切なことの6位で、2番目に大切なことのトップに登場する。

図27 1番理想的だと思う仕事(%)

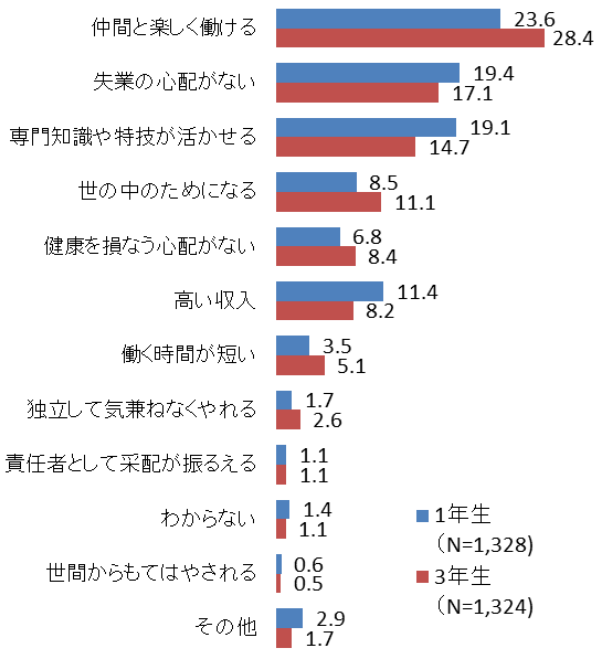
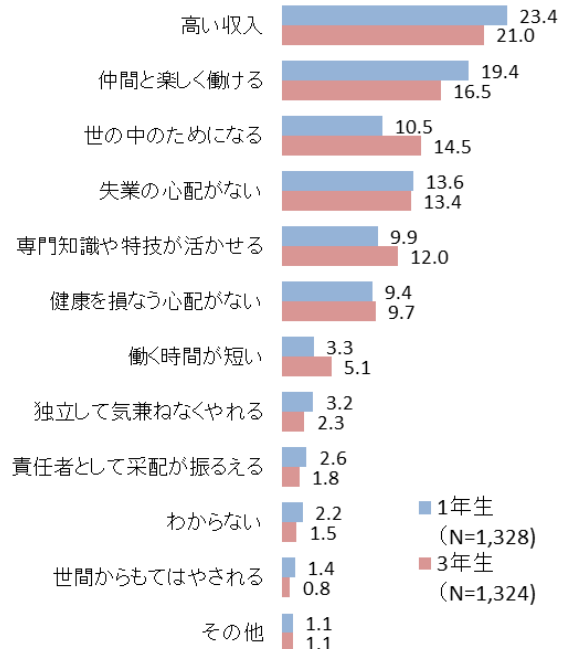
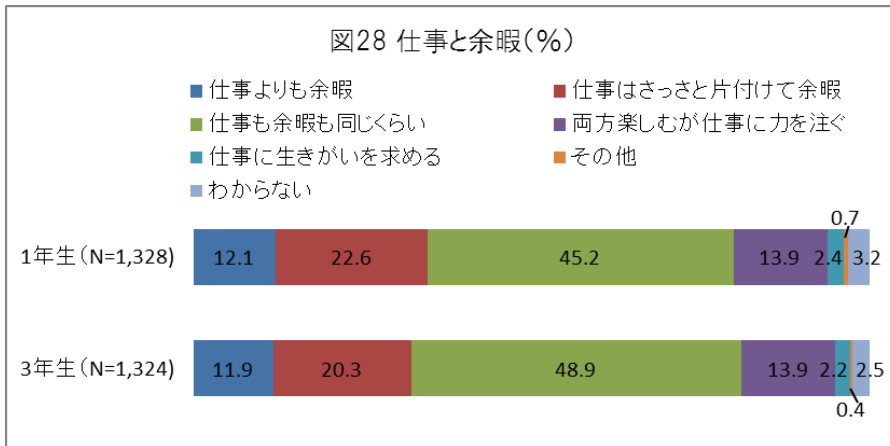


図27 2番目に理想的だと思う仕事(%)



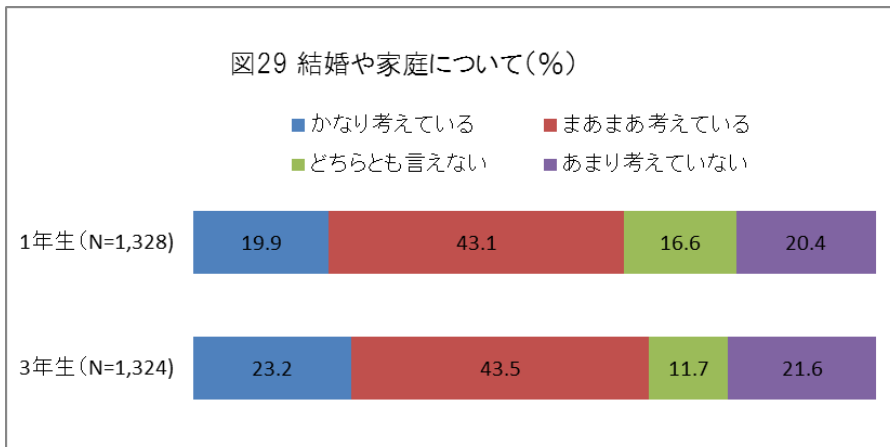
Q28 仕事と余暇の関係

仕事と余暇のあり方について「もっとも望ましい」ものを1つだけ選ばせたところ、1年生、3年生ともに、「仕事にも余暇にも同じくらい力を入れる」を選んだ学生が約半数を占めた(1年生45.2%、3年生48.9%)。次いで多く見られたのは、1年生、3年生ともに、「仕事はさっさと片付けて、できるだけ余暇を楽しむ」(1年生22.6%、3年生20.3%)であった。



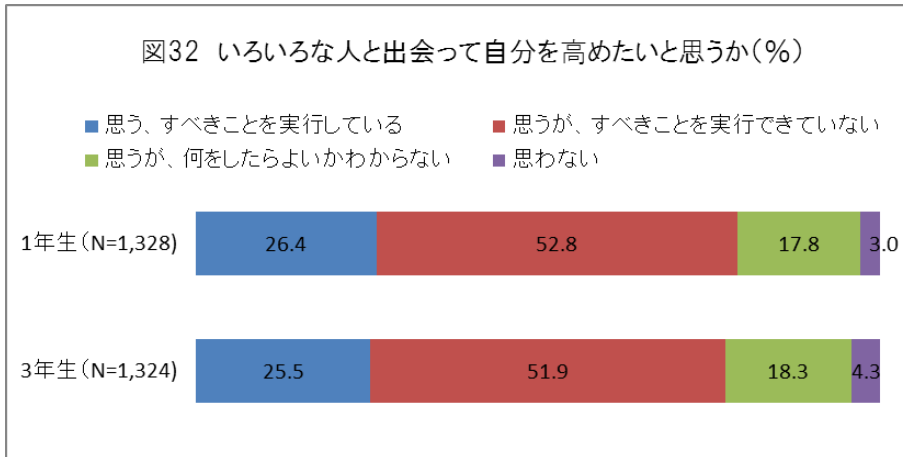
Q29 結婚やその後の家庭生活についての考え方

結婚やその後の家庭生活についてどう考えているのかを尋ねたところ、1年生の63.0%、3年生の66.7%が「かなり考えている」、「まあまあ考えている」と回答している。「あまり考えていない」は1年生、3年生ともに約20%。



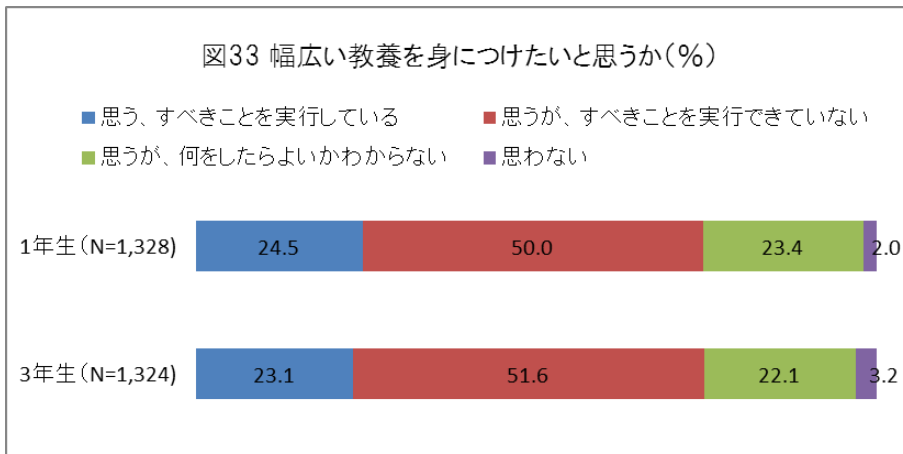
Q32 自分を高めるための行動

自分を高めるためにどのような行動をとるか聞いた。「いろいろな人と出会って自分を高めたいか」の問いに最も多い回答は「思うが、すべきことを実行できない」で、1年生、3年生ともに過半数に達する。



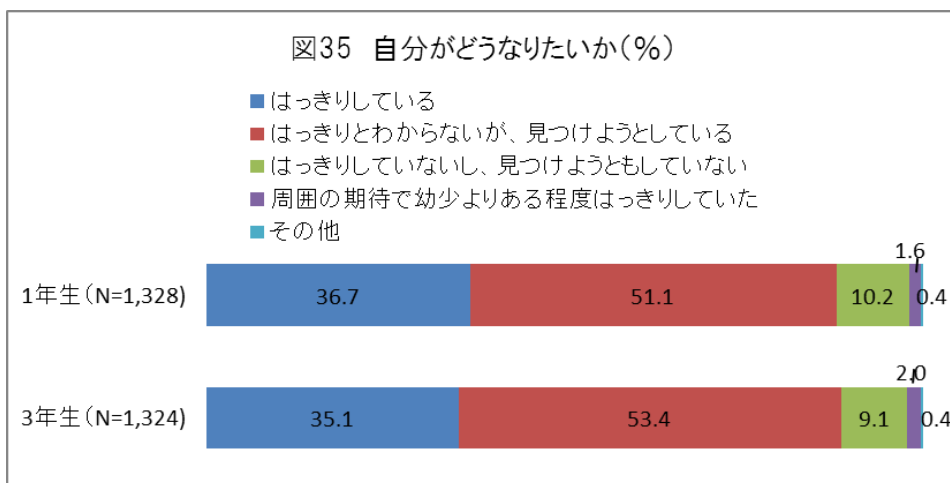
Q33 教養を身につけるための行動

幅広い教養を身に着けることへの行動を聞いた。ここでも「思うが、すべきことを実行できない」が、1年生、3年生ともに過半数に達している。



Q35 自分がどうなりたいか

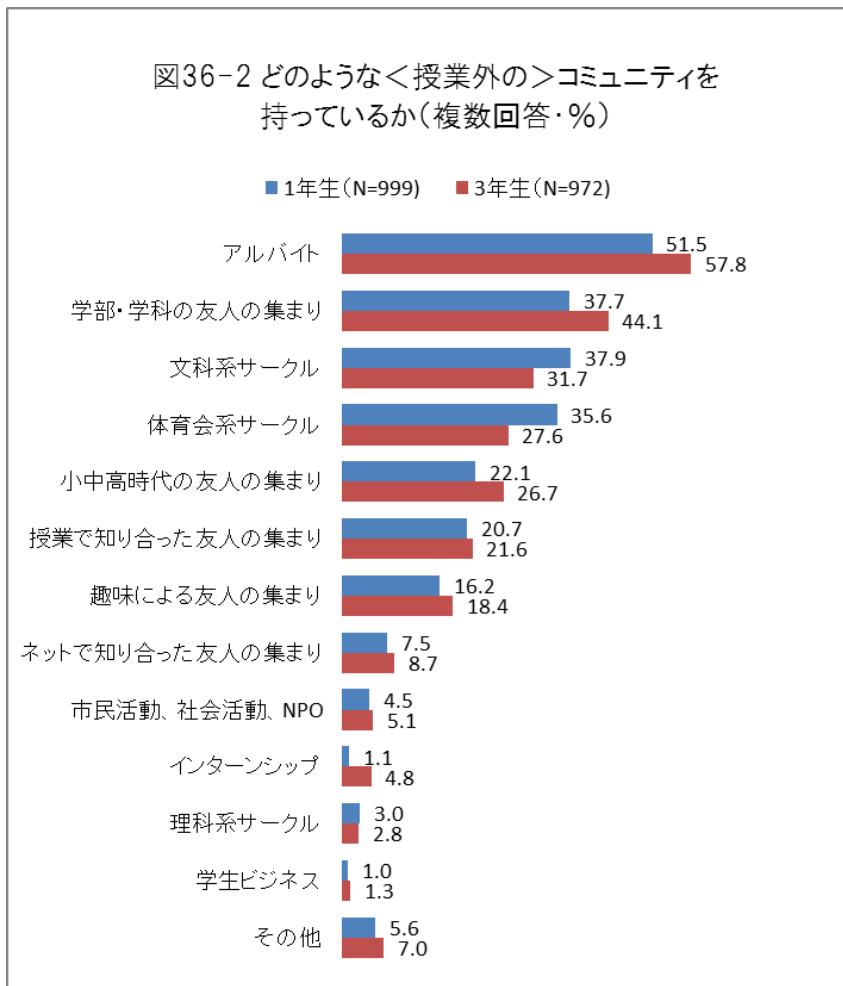
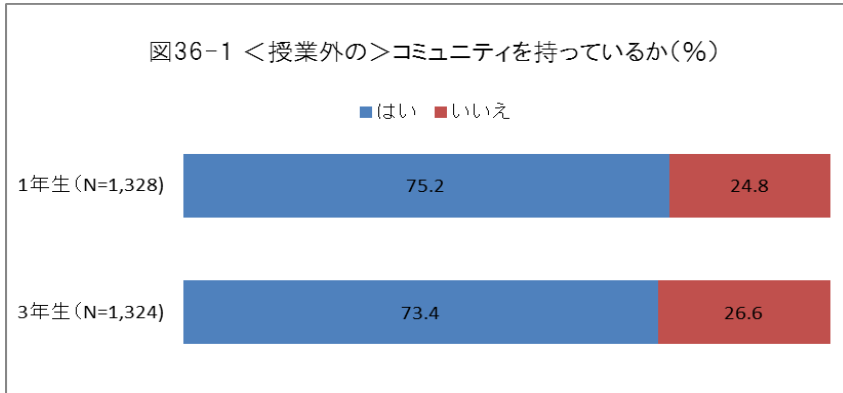
自分の将来の姿についての認識を聞いた。1年生、3年生ともに「はっきりとわからないが、見つけようとしている」がトップで、全体の半数に達している。「はっきりとしている」は全体の35%前後で、これも1年生、3年生が同じ傾向であった。



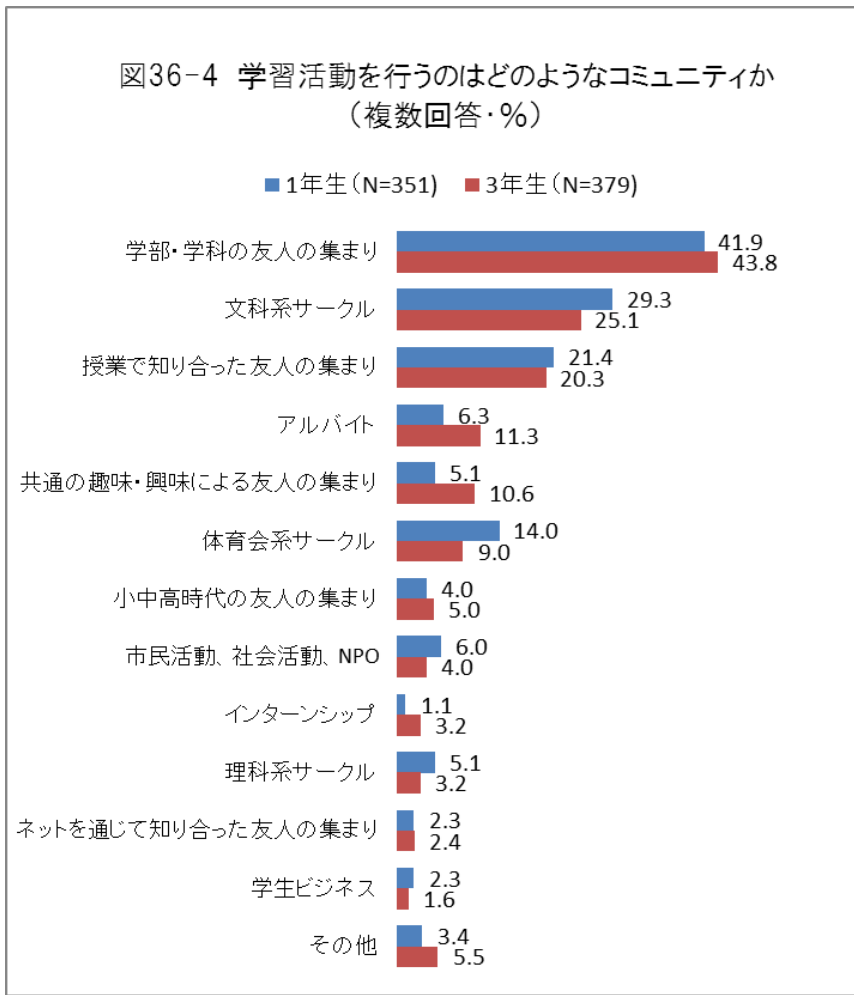
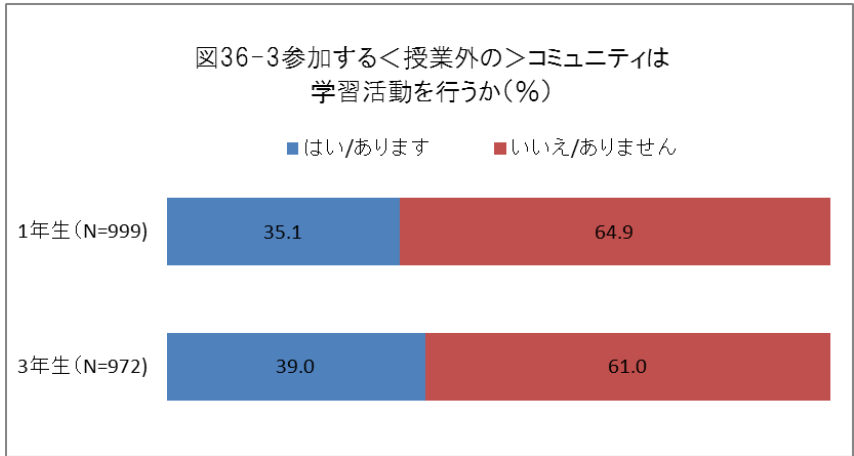
Q36 授業外のコミュニティ

大学生の4人に3人は授業以外のコミュニティを持っていると回答しています。その内容は「アルバイト」が半数以上と最も多く、その他は学内での友人とのコミュニティでした。大学生は授業、授業外ともに大学と深くかかわっていました。

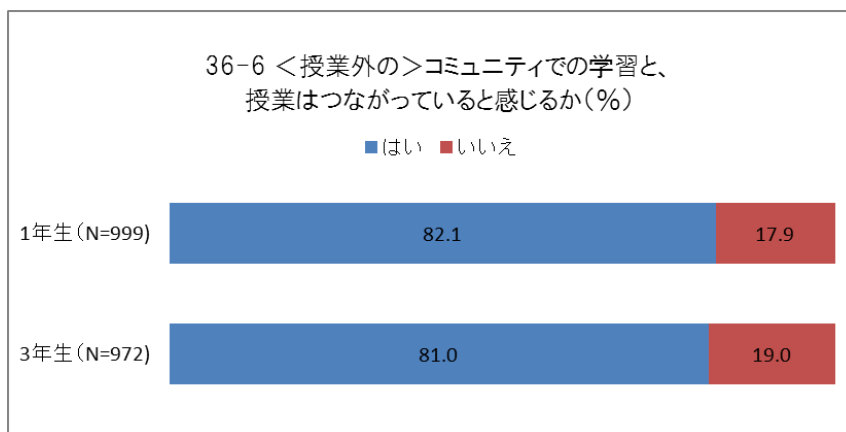
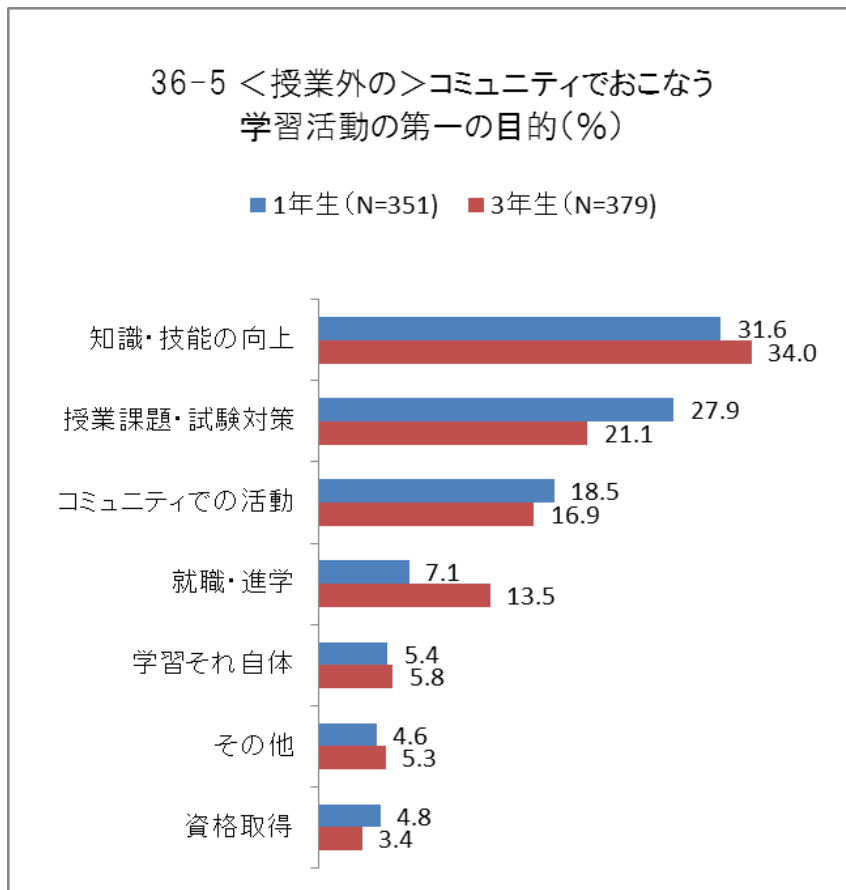
Q36-1 授業外のコミュニティの有無と種類



Q36-2 学習活動を行う授業外のコミュニティとは



Q36-3 学習活動を行う授業外のコミュニティの目的



Q37 授業(講義・ゼミ)と授業外で身につけたこと(知識や技能)の相互交換

授業で身につけた知識や技能と、授業外出学んだことを授業に活かすのという相互交換をしているのは1年生、3年生ともに約半数であった。しかし、わずかながら3年生の数値が高く、授業と授業外の学びの接続が、1年生よりも進んでいるといえる。

